古今類句

杉山文庫

玉葉集
新古拾冬
山家集下
同
新撰六帖
拾遺愚草上
新千載
新勅撰
新後撰下
新拾遺
拾遺愚草上
同下
山家集下
新後拾雜春
同花冬
拾玉集五

九曜文庫

菅原孝標朝臣
後三位教改
忠房卿
卜部兼直
源実氏卿
後三条太政大臣
大炊御門経房
卿之撰定

拾遺雑四
張子房一
拾遺草下
張古詩紙
風雅冬
拾遺草中
夕雪
拾遺草下
新張古歌下
新子房二
新拾遺一
玉葉雑一
月清集上
同下
新古歌二
拾遺草中
張子房一
新拾遺雑四
張子房
新古歌
張子房中
張拾遺雑中
新勅雑四
金葉雑二
新勅雑四
新張古歌上
古今雑下
張古賀
新子房二

山家集上
玉葉雑一
新拾遺一
張拾遺
張古雑下
拾玉集一
玉葉雑四
子房一
新古歌
張子房中
張拾遺雑中
新勅雑四
金葉雑二
新勅雑四
新張古歌上
古今雑下
張古賀
新子房二

新拾玉集
張子雑中
張子
玉葉雑二
新後拾一
風雅四
張撰集
新後拾四
張撰集三
新後拾三
後撰遠秋上
新古冬
後撰集下
山家集上
玉葉旅
風雅雑中
張子雑秋
長秋詠藻上

なのりてこあの年月をかなあれ
張子雑中
浜ちどりなき侍りしそらくら
たなびきまのこせるまやきうら樫と
張子
玉葉雑二
さもあらたのの名のもあるて焼
新後拾一
独り浦の凍入江の月をとりて
風雅四
うきねの一人数のもあるまこ
張子撰集
いはくらと年ふる里もと新しん
新後拾四
さらめるきくの数ならぬ
張子撰集三
ふりきするあまもむしろ
新後拾三
さらのもしもとんと思ふ今の世
後撰遠秋上
さらとうとりてあるしは
新古冬
年ぬのそ浦世の高ものもむしろ
後撰集下
花しあくハ行ふ人数かん
山家集上
水上よ思ひ対はむすふ
玉葉旅
雑波ふ行ふ言ふ
風雅雑中
飛つまとさきり紅葉明よ
張子雑秋
花のうたるふ
長秋詠藻上
うりとあるひ

はは吉はは寄
順空上人
あ中納言家
後新成成
後撰成成
花園院
花原惟成
桂僧正源宗
後撰
花園院
大江貞
茅原僧正
ふる人
壬生忠見
花原為兼
曽禰好忠

玉葉冬
風雅雑上
張子雑上
新新古四
新後拾雑旅
新葉雑旅
新後拾雑春
同友
張子秋下
新新拾名
新拾秋上
壬生二忠
新子友
張子拾雑上
同秋下
山家集上
玉葉秋上
拾玉集六

雑春月をうつ
日新後拾雑
張子雑上
新新古四
あきの
なのめ
新後拾雑旅
新葉雑旅
新後拾雑春
墨の名月
早苗
張子秋下
あるく
新新拾名
花
壬生二忠
さむ
新子友
うり
張子拾雑上
もの
月
月
秋
玉
拾玉

ふるとの
ふるとの
ふるとの

新拾秋上　ひさかたの月の桂のもみぢ葉は　[illegible]
拾遠恋二　[illegible]
新拾恋三　[illegible]
後古歌張　[illegible]
後千雑下　[illegible]
新拾恋四　[illegible]
壬生二条下　[illegible]
拾遠恋五上　[illegible]
拾遠員外上　[illegible]
玉葉秋上　[illegible]
新拾秋上　[illegible]
後古恋下　[illegible]
拾遠恋五下　[illegible]
新拾秋上　[illegible]
新勅恋三　[illegible]
拾遠雑上　[illegible]
玉葉恋四　[illegible]
新拾秋下　[illegible]

新拾恋四　[illegible]
同恋三　[illegible]
新拾恋五　[illegible]
新拾恋三　[illegible]
新拾恋三　[illegible]
後拾遺雑　[illegible]
新後古恋　[illegible]
新後拾恋四　[illegible]
玉葉秋上　[illegible]
後千恋二　[illegible]
拾遠恋三　[illegible]
山家集下　[illegible]
拾遠恋五上　[illegible]
金葉夏　[illegible]
俊頼物語　[illegible]
新勅雑二　[illegible]
後拾遺雑下　[illegible]
拾遠恋五上　[illegible]

山家集上　花とてもつれなかりけるみよしの
月清集下　雪ふりとうる夏ぞ冷ぬる
新後拾遺　なる秋のつくりみそきをいつくらん
玉葉秋上　いつくらんそこもとまぬ白雲の
新拾冬　風さゆる淺茅ヶ宿の夕日影
続後拾遺　郭公たゞ一こゑとまりけり
新後撰雑上　あるかなむ里のをとめやとをん
千生二百上　天乃原空ゆく月の影りけん
拾遺愚草上　冬きて野へ乃りかねぬ雲ぬ
続古秋上　るまこそ人秋の郭といはるて
新拾秋下　無同野に朝ゆく雲も紅葉
続拾遺秋上　七夕れあく秋のよの月
玉葉雑上　我宿の柳の糸ハ乃くとを
千生二百中　おくすゆる遠乃ゆくとを
新後撰雑上　七夕なまれのあ糸引うけく
続撰秋下　乃ゆくもかつも振るれく
河花秋　かきれて車とゝ人まる秋を
古今秋上　なるゆ人ゆきぬまを乃ゆ後

類句

千生二百上　初乃花ひとゆるゆきかつ
拾玉集六　続世紅葉ゆゝ乃ゆきを
新後撰二　りゆくあまれく縄打ゆ
後拾遺一　まこりはの水まゆ紅葉
古今恋一　世の海のおまの乃ゆ野ゆ
千載恋　乃ゆ紅葉ゆ乃ゆ乃ゆ
長秋詠藻　ゆゆんゆ初つんゆ紅
風雅雑下　今ゆゆの乃ゆゆゆ
新無雑下　乃ゆあゆ乃ゆ乃ゆ
玉葉雑又　いつゆゆゆゆ紅乃ゆ
拾玉集四　君ゆ紅乃ゆ乃ゆ
拾遺愚草上　山ゆゆゆゆゆ乃ゆ
続後撰恋　ゆゆゆゆゆ乃ゆ
新古雑下　ゆゆゆゆゆ乃ゆ
拾玉集一　思ゆゆ乃ゆゆ乃ゆ
後撰恋一　我ゆゆゆゆゆゆ
後拾遺恋一　ゆゆゆゆゆゆ
新古恋一　ゆゆゆゆゆゆ

小鮒
刑部卿
俊忠法師
津守国冬
曽祢好忠

新後古巻一　ひさかたの雲そつくに高まれる初瀬の山の桜花　三位法橋教
後拾遺巻一　春山のたかきこずえにうつるらん秋風ふきぬ白雲の峰　俊頼朝臣
後古巻六　秋風ふきぬ白雲の峰　今はやとうつるらん
後拾遺巻一　世間をひさしきものとうつるらん　俊頼朝臣
新千巻一　昇平の御の君の信風ぞうつるらん　大宰帥
後拾遺巻一　いつるれば春の山の花ぞうつるらん　大宰帥
新後拾巻二　春の海のなかれ　普光園院
新後古巻二　春ともいとこころ　今はやひとうつるらん　普光園院
後拾遺巻一　いつるとはいとこころ　今はやひとうつるらん　普光園院
新千巻一　春の海のなかれ　今はやひとうつるらん　普光園院
後拾遺巻二　春の海のなかれ　今はやひとうつるらん　普光園院
新千雑中　春の海のなかれ　今はやひとうつるらん　普光園院
新後拾巻十　春の海のなかれ　今はやひとうつるらん　普光園院
同雑上　なかれ　今はやひとうつるらん　普光園院
後拾遺巻二　人先の春の海のなかれ　今はやひとうつるらん　普光園院
新拾巻一　社の春の海のなかれ　今はやひとうつるらん　普光園院
後拾巻二　のりえのとの世の海を縄　今はやひとうつるらん　普光園院
新千巻一　今はまた誓の海のなかれ　今はやひとうつるらん　普光園院
後古巻六　あひかの新法の海のなかれ　今はやひとうつるらん　普光園院

新後古巻六　いつるとはいとこころ　今はやひとうつるらん　普光園院
後拾遺巻二　春の海のなかれ　今はやひとうつるらん　普光園院
新千巻一　春の海のなかれ　今はやひとうつるらん　普光園院
後古巻六　春の海のなかれ　今はやひとうつるらん　普光園院
後拾巻二　春の海のなかれ　今はやひとうつるらん　普光園院
新千巻一　春の海のなかれ　今はやひとうつるらん　普光園院
後拾巻二　春の海のなかれ　今はやひとうつるらん　普光園院
新千巻一　春の海のなかれ　今はやひとうつるらん　普光園院
後古巻六

拾遺恋二　ちるきくとをりてしのぶの世ふるさとの　ちるきくとをりてしのぶの世ふるさとの　ちるきくとをりてしのぶの世ふるさとの
後拾遺恋三　岩ねしをかすみる山の奥そもの　花の下にかすみる山の奥そもの　花の下にかすみる山の奥そもの
拾遺恋一　後つつあれとこのしたもえのつ　ちるまてあれとこのしたもえのつ　ちるまてあれとこのしたもえのつ
同前　わすれてとこの雨ふるとも　わすれてとこの雨ふるとも　同
古今恋一　人をもとはかりかこひそ　人をもとはかりかこひそ　同
風雅旅　ふるさとの花のもとにて　ふるさとの花のもとにて　ふるさとの花のもとにて
新拾遺雑　一ちるはなのなかるるまで　一ちるはなのなかるるまで　一ちるはなのなかるるまで
後拾遺恋三　特ちるはなのつらかりく　特ちるはなのつらかりく　特ちるはなのつらかりく
新拾遺雑　いつるはなにはれるまてに　いつるはなにはれるまてに　いつるはなにはれるまてに
拾遺雑上　あすはかはみるとをすき　あすはかはみるとをすき　あすはかはみるとをすき
新古雑上　るかの月ちりそかるひ　るかの月ちりそかるひ　るかの月ちりそかるひ
新拾遺雑上　山里はそとはやせのうき　山里はそとはやせのうき　山里はそとはやせのうき
拾遺雑恋　をもはるとはかりてはれぬる　をもはるとはかりてはれぬる　をもはるとはかりてはれぬる
新拾遺雑　ちるもをしとはやうん　ちるもをしとはやうん　ちるもをしとはやうん
後古春上　ちるはなのあるはるの　ちるはなのあるはるの　ちるはなのあるはるの
長秋詠藻上　みるせはるもはしく　みるせはるもはしく　みるせはるもはしく
拾遺恋五　春の夜のやはらく　春の夜のやはらく　春の夜のやはらく
後拾遺雑中　ちるはなのあるはるの　ちるはなのあるはるの　ちるはなのあるはるの

源俊頼

藤原為忠

紀貫之

源重之

藤原為家

光厳院御製

源重之

藤原為家

紀貫之

源重之

藤原為家

紀貫之

源重之

藤原為家

紀貫之

新古秋下　あけぬるや川とも見ぬ霧のうち　左衛門通光
月清集下　久方の天の川とうらしらし
玉葉夏　大井河うらぶれかうら河のうら
新勅雜二　なみとのみ特まれ私の山ぞ
新後拾冬　何とかは世の人とはまとはれ
玉葉雜二　世里八山陰ちれかうらを
壬生二京上　海ちくて秋も別とおしむ
後拾遺恋二　よるのとみまとうれしかを
玉葉秋上　秋の末の風のすゑ
拾玉集二　秋海棠の花乃雲
新後拾雜秋　あ寄をとやとうとう鶴人や
新後撰雜上　雲ふるきの山の下ちかく
新古雜中　いつとも知とくしたのかけ
拾遺恋三　世しぬうきかひ河のあ
拾遺恋五　つとうとうとうとうん河の海
拾遺愚草上　一度とうかあ花ちらして
拾遺愚草上　年ちうちとうとうとうとう
玉葉冬　あうもかうとれいとなる

飛山院御製　後撰秋下
拾中納言雅
民部卿為世

源重之　拾遺恋三
花山院御製　拾遺恋三
紅葉家　法華守護
道命法師　拾遺恋五
恵法師　拾遺恋五
藤原師任朝臣　拾遺恋五
花山院御製　拾遺恋五

新古恋三　はるもあうとれとうとうとうとうとう
新後古雜　思ふ花ちとのうとれ
新古恋三　産とあうとうとうとうん
壬生二京上　歌ちとうとうとうとう
後撰雜五　山ものの山四とあ縄
後撰雜五　わうとうとうとうとうとう
新後恋三　ちとれとうとうとうとう
後拾恋四　袖ちうとうとうとうとう
壬生二京上　ちとうとうとうとうとう
拾遺恋五　ちとうとうとうとうとう
古今春下　いとうとうとうとうとう
後撰雜五　なきかけの花とうとうとう
壬生二京中　山のとも対面とうとう
同上　歌四出ちとうとうとう
新後恋上　雪とうとうとうとう
後拾遺恋四　岩ちとうとうとうとう
新後拾春上　海かうとうとうとうとう
新後撰冬　本業のとうとうとうとう

花原知家　後拾遺恋三
花原長　後拾遺恋三
花原道信
花原安四　後拾遺恋五
院御製　後拾遺恋五
西園寺公経　後拾遺恋五
藤原宗秀
藤原家隆　後拾遺恋五
和泉式部　後拾遺恋五
右近大将　後拾遺恋五
権中納言雅世　後拾遺恋五

新千冬　壬生二位中

新葉秋下

新拾遺下

後拾秋下

風雅集下

後拾冬

古今秋下

新千秋下

後拾秋下

山家集上

後拾秋下

山家集上

玉葉恋

新後古恋

新古恋三

新後拾遺恋

新拾雜春

後拾遺恋下

新葉雜上

壬生二位上

後拾雜上

後拾遺恋二

玉葉冬

新古冬

後千冬

新後千雜

壬生二位上

拾玉集一

後拾恋二

玉葉恋三

新後拾遺恋

新古恋三

白雲掛て流るる清水

五明の月かすみにたなびく

行末の霞ぬる色にて

四月ばかりに人

待賢門院堀河

あだ名を立て

藤原定家朝臣

源俊頼

西行法師

源宗于朝臣

赤染衛門

祥子内親王

待賢門院堀河

あだ名を立て

藤原定家朝臣

源俊頼

西行法師

源宗于朝臣

赤染衛門

祥子内親王

[illegible]
[illegible]
[illegible]

拾玉集六　風ふかぬ　[illegible]　宗祇
拾遠貞十　[illegible]　[illegible]　[illegible]

後拾遺帯　いつくしまの神の御前月　相模
新勅撰上　とまきさす白雲たちかかる月に　大納言内侍
拾玉集五　君のすむ宿れば雲の月ぞ　家隆
風雅旅　秋とこそ旅のやどりは　藤原定家卿
新古今教　谷川のうすらに結ぶ氷　肥後
金葉雑上　ちりぬるに秋のやどりは月新　僧都彩基
同　うつりぬるきくの露にぞ　桃園元
拾遺抄名　分もとめて山は入ぬれ　藤原元
山家集下　ふるとりの羽のつるぎ　藤原
拾玉集二　うき世にはうらぶれぬ　
俊撰秋上　風さむしうすの氷　
拾遺草上　夢もなほさめぬ人の　
拾遺雑秋　世中は人をとをとは　
俊撰雑二　わがうら山はとうとは　
拾遺草上　つくもむすぶの浦の　
後拾遺三　ふるの神ぬまの池の　
新古今　ちりぬるに秋の月　
後拾雑上　つくしまの浦の　
後撰秋上　ちりぬるに秋の月　
後拾遺三　ちりぬるに秋の月　
後撰秋下　ちりぬるに秋の月　
後撰雜上　ちりぬるに秋の月　
拾遺抄名　ちりぬるに秋の月　
新後拾雜上　ちりぬるに秋の月　
新後拾雜上　ちりぬるに秋の月　
同　ちりぬるに秋の月　
壬生二荒上　ちりぬるに秋の月　
新古今一　ちりぬるに秋の月　
壬生二荒上　ちりぬるに秋の月　
新古今三　ちりぬるに秋の月　

風雅春上　かすみのうちの春の月　
壬生二荒上　ちりぬるに秋の月　
新古今冬　ちりぬるに秋の月　
後拾遺秋三　ちりぬるに秋の月　
後古歌撰　ちりぬるに秋の月　
新古今歌撰　ちりぬるに秋の月　
新拾雜上　ちりぬるに秋の月　
後撰秋上　ちりぬるに秋の月　
後古秋下　ちりぬるに秋の月　
後撰歌撰　ちりぬるに秋の月　
拾遺抄名　ちりぬるに秋の月　
新後撰雜上　ちりぬるに秋の月　
新後拾雜上　ちりぬるに秋の月　
玉葉秋上　ちりぬるに秋の月　
同　ちりぬるに秋の月　
壬生二荒上　ちりぬるに秋の月　
新古今一　ちりぬるに秋の月　
壬生二荒上　ちりぬるに秋の月　
新古今三　ちりぬるに秋の月　

安光院　公卿
閑白太政大臣
左大臣　師良
行念法師
二条法親王　雅成親王
雅成親王　
藤原定家
藤原定家卿
藤原定家卿
藤原定家卿
藤原定家卿
藤原定家卿
藤原定家卿
藤原定家卿
藤原定家卿
藤原定家卿

拾遺五十五上　松風乃ふきのうらのうらかぜ　ふきにしかぜ　永福門院
新千五百四　いそのうらのうらかぜ　ふきにしかぜ　永福門院
新古今千五百　あまのすむかたのうらかぜ　ふきにしかぜ　藤原為秀朝臣
風雅秋中　嵐のうらのうらかぜ　ふきにしかぜ　藤原為秀朝臣
壬生二百五上　いつしかと秋ぞ　ふきにしかぜ　藤原為秀朝臣
後拾遺二百三　暁の霧ぞ　ふきにしかぜ　馬内侍
後拾遺雑上　秋ぞ　ふきにしかぜ　藤原為氏
新千百秋上　雲ぞ　ふきにしかぜ　藤原為氏
新後拾遺秋下　霧ぞ　ふきにしかぜ　曽禰好忠
後拾遺雑春　片岡の　ふきにしかぜ　法二位為教
拾遺百五十下　ひさしかりつる　ふきにしかぜ　藤原為氏
古今雑上　むかしの　ふきにしかぜ　後鳥羽院
新後古今雑上　春とあさぼらけ　ふきにしかぜ　慈覚法師
新後拾遺春　月　ふきにしかぜ　藤原為氏
大和物語　わかれぬ　ふきにしかぜ　長綱
風雅秋中　秋ぞ　ふきにしかぜ　貞慶法師
新古今雑中　月　ふきにしかぜ　藤原為氏
壬生二百五中　おもかげ　ふきにしかぜ　藤原雅経

玉葉雑二　ふきにしかぜ　院御製
同秋上　うす雲の　ふきにしかぜ　永福門院
新千雑中　わたる海の　ふきにしかぜ　法中納言
後古五百四　行くえ　ふきにしかぜ　中務卿親王
同冬　入日さびしき　ふきにしかぜ　正三位知家
新後拾遺秋　雲ぞ　ふきにしかぜ　花園院御製
後拾遺三百三　あとぞ　ふきにしかぜ　監物
大和物語　あとぞ　ふきにしかぜ
拾玉集二　月　ふきにしかぜ　藤原為家
新千冬　さびしき　ふきにしかぜ　後二条院御製
拾遺百五上　ちぎりし　ふきにしかぜ　源兼長
後拾遺雑六　うらの　ふきにしかぜ　後鳥羽院
後古今雑上　秋の　ふきにしかぜ　藤原為家
拾遺百五十　そよぐ　ふきにしかぜ　藤原為家
拾遺百五十　山里の　ふきにしかぜ　藤原為家
拾遺百五十　みなれし　ふきにしかぜ　藤原為家
新葉秋下　ふく　ふきにしかぜ　二条為敦卿
古今秋上　秋の　ふきにしかぜ　藤原為家
拾玉集一　月　ふきにしかぜ　藤原為家

同雜雜中　藤原清輔朝臣
山家集下　春ごとに花のさかりの雲をこそ
又月毎に見しかどもかはらぬ
又載之　月ごとに月のかたぶくかげをこそ
後拾雜上　世中をうきものとのみ思ひ
後拾雜上　世中をうきものとのみ思ひ
後拾雜上　世中をうきものとのみ思ひ
新古拾雜上　世の中をうきものとのみ思ひ
壬生二首中　世の中を浅ましとのみ思ひ
古今恋一　世の中を浅ましとのみ思ひ
新古冬　世の中を浅ましとのみ思ひ
紀宴　世の中をうきものとのみ思ひ
拾遺員外下　うきものとのみ思ひ
新古秋上　うきものとのみ思ひ
月清集　うきものとのみ思ひ
新勅秋上　うきものとのみ思ひ
拾遺員外上　世の中をうきものとのみ思ひ
拾遺雜上　世の中をうきものとのみ思ひ
後拾雜上　世の中をうきものとのみ思ひ

藤原基俊朝臣
金葉雜上　春ごとに花のさかりの雲をこそ
西行法師
山家集　春ごとに花のさかりの雲をこそ
西行法師
山家集　春ごとに花のさかりの雲をこそ
西行法師
山家集

源撰秋上　我てくもりなくかるの秋きりこめて　うら金つれ
新後撰雜下　あるよりふるき旅しるべかな　はるかすまつ
明石　ひとこころもうかさふあめ　ふるあめ
玉葉旅　旅衣袖にきてひとりやゆく　なかつ
俊衣三　なかひのいとるきとみれば　なかつ
拾遺物名　新古今月　あきの月　明
拾玉集七　露ちる秋の夜　露ちる
後鳥羽下　時雨ちる秋の夜　時雨
後拾遺雜　秋の夜　秋の夜
古今雜旅　みちのくの　みちのく
新古秋冬　みちのくの　みちのく
後拾遺雜　新古今　新古今
拾遺別　郭公　郭公
拾遺貞外上　ぬるまくの　ぬるまくの
新古雜旅　ふるさとの　ふるさと
新後古雜旅　月もうつる　月もうつる
新後雜旅　新古今　新古今
壬生二品上　かりそめの　かりそめの

今上御製
去秋八月十五夜
月
清原宣成
清原宣賢
中宮大夫宗一安
法中経賢
普光園院殿
関白左大臣

月清集下　明るかぎり　野の山もむ　秋の夜
拾遺貞外上　ちりそめ　ちりそめ　ちりそめ
後拾遺上　女郎花　ちりそめ　ちりそめ
新古雜上　あきの　あきの　あきの
後二条三　あきの　あきの　あきの
後拾遺物名　月　月　月
玉葉雜三　むしの　むしの　むしの
拾遺物名　むしの　むしの　むしの
玉葉雜三　むしの　むしの　むしの
同　むしの　むしの　むしの
拾玉集六　もみぢ　もみぢ　もみぢ
拾遺貞外　もみぢ　もみぢ　もみぢ
長秋詠藻上　時雨　時雨　時雨
玉葉雜四　村雨　村雨　村雨
拾遺雜三　ちりそめ　ちりそめ　ちりそめ
玉葉雜二　常ちりそめ　常ちりそめ　常ちりそめ
同秋上　秋の　秋の　秋の
山家集下　いそのかみ　いそのかみ　いそのかみ
後拾遺雜二　もみぢ　もみぢ　もみぢ
玉葉秋上　おちつもる　おちつもる　おちつもる

安親
藤原親
如覚法師
三条院殿
法性寺入道
前太政大臣

金道
右兵衛督
人麿
永縁
僧都
新院御製

[illegible]
同歌旅
[illegible]
拾玉集四
[illegible]
大和物語
新拾遺一
[illegible]
[illegible]
[illegible]
風雅雜下
須磨
[illegible]
拾遺員外下
新千載二
壬生二百下
[illegible]
[illegible]
[illegible]

続古今　　加茂の社の歌合のころ　　従三位家隆
新勅撰下　　花ゆゑ　　仁安極楽院前大政大臣
風雅雅上　　露ふかき夕日の光　　院御所
拾玉集七　　ちりにしあとの山の松
山家集　　つもれとてあとなき雪の
風雅旅　　いつかまた秋の月
同雑中　　岩ぬらす水の音
新古今上　　道命法師
拾遺愚草上　　ちりにしあとの木の葉
続拾遺雑　　立田山雲の錦
山家集下　　ちりにしあとの月
寄木　　従一位家隆
新勅撰　　春の夕通光
風雅冬　　ちりにしあとの山の風
新続拾雑　　ちりにしあとの雲
月清集上　　ちりにしあとの雲
同　　ちりにしあとの雲
続拾冬　　順徳院御製
　　ちりにしあとの月

月清集上　　雪の花の光もあらぬ歌の月
拾遺愚草　　ちりにしあとの雪
拾玉集四　　ちりにしあとの雪
風雅雑上　　ちりにしあとの雪
続拾雑　　ちりにしあとの雪
新拾玉下　　菅原道真
拾玉集四　　九条中将公衡
　　ちりにしあとの月
　　ちりにしあとの山
　　ちりにしあとの月
　　ちりにしあとの山
　　ちりにしあとの雪
　　ちりにしあとの雪
　　ちりにしあとの雪

月清集上　吹風や宮ゝまつ[illegible]
後拾遺　名ゝ[illegible]
玉葉秋上　秋風のさむき[illegible]
新後拾遺　[illegible]
風雅秋下　[illegible]
後千冬　[illegible]
風雅冬中　[illegible]
新後拾遺　[illegible]
新後撰冬下　[illegible]
山家集　[illegible]
新古冬下　[illegible]
拾遺愚草上　[illegible]
新拾雑中　[illegible]
玉葉雑
新拾雑上　[illegible]
後拾遺雑上　[illegible]
千載羇旅　[illegible]
拾遺愚草上　[illegible]

拾遺愚草上　[illegible]
拾玉集六　[illegible]
山家集上　[illegible]
拾玉集六　[illegible]
壬生二年　[illegible]
千載
新後撰雑上　[illegible]
新古恋上　[illegible]
同上　[illegible]
拾遺愚草上　[illegible]
風雅夏　[illegible]
後撰雑一　[illegible]
壬生二年上　[illegible]
新葉恋一　[illegible]
後撰雑上　[illegible]
新古恋四　[illegible]
壬生二年下　[illegible]
玉葉雑下　[illegible]

月清集上　郭公　新古今　拾遺貞平　さらぬ夕ぬきぬ風まさる山はの月
風雅夏　衣をうちてきぬ風とぞ聞ゆる
拾遺秋上　をむしてもいくらもあらぬ世を
新後撰雜上　なにとてもかりそめにとは思ふ
後拾遺秋上　天つ風雲の路吹とじよ
玉葉雜四　なきこゑ絶て月ぞ
後古今　照月のうつれば
拾遺雜上　うつるかげ
長秋詠藻中　うれしなるこゑ
後拾遺賀　四方の海風
拾遺雜上　四方はなほ
月清集　八里はなほ
後拾遺秋上　日吉
風雅賀　色
壬生二首下　引
後撰雜四　四つ
壬生二首上　月
後千載雜上　水
千載雜上　ちぶ
後拾遺秋下　八里
壬生二首下　いな
後古今二　あ
壬生二首下　さ
後古今一　ま
新拾賀　か
後古今賀　な
新拾秋下　あ

玉葉秋下　立ちもつかぬ秋の雲乃うへまに　今りてこそ秋のそらの
新拾秋下　俳業秋校　今りあはせてこそ
新古今上　おほそら梅の　今りもそなれ
新古今冬　うつり雲　今りもそなれ
拾遺貞平上　さ夜海　今りもそなれ
壬生二首上　白の浦　今りもそなれ
後千載二　立ち　今りもそなれ
後千冬　時雨　今りもそなれ
後拾遺秋下　水乃　今りもそなれ
千載雜上　ちぶ　今りもそなれ
後千載　八里　今りもそなれ
壬生二首下　いな　今りもそなれ
後古今二　あ　今りもそなれ
壬生二首下　さ　今りもそなれ
後古今一　ま　今りもそなれ
新拾賀　か　今りもそなれ
後古今賀　な　今りもそなれ
新拾秋下　あ　今りもそなれ

菊中納言定家　春日詣官宣
花原定家卿
拾遺雜上守
花原成家卿
法皇御製
太宰大貳重家
仁和寺法親王
衣笠内大臣
家隆卿
後二位入道
典侍花原
後鳥羽院

風雅冬
新後撰四
新拾夏
金葉秋
新葉雅上
後古夏三
新後拾四
新後古上
拾玉集三
風雅雅下
拾遺夏三
風雅雅上
新後拾四
新古雅上
新葉夏
後拾秋上
新千秋上
拾玉集三

ハ行きすぎてあかぬ月の夏の夜
うらぶこえいとゝ雅の月
なつ神の音なひなる夕立
かつらぬきのうち出る月の影
うつる方をハ秋の風
夏やけ月ゝそてもたまらぬ
夏の月あかぬ海の波の
拾玉集三
伊吉の春大の煙のなれも
玉津嶋の月ふかぬ
いかしゝと蓮葉の露
秋さむしきぬの月
ひとしも雅とかゝ
後歌ひろ山の月
風うゝもすゝしき
見渡ハ山乃きゝ
見渡の山ぬ清く
うゝハつゝ

ゝもとゝ月ハ時の日陰ゝ
ゝもとゝ月ハ時の日陰ゝ
ゝもとゝ月ハ時の日陰ゝ

同新雅下　かくてのこるふるの明月
古今雑上　大江をとこ　月はいとあはれなるものかな
拾玉集六　世はなれぬ人の心の月
新拾玉　月ゆゑ思ひさまさるあはれ
新続古下　思ひ今宵新宮の月
新勅撰上　山のこなたにさしてやうつる
同雅四　明はなれぬとてもいとあはれ
同雅秋上　山里は秋の葉さきまじりの
新千載下　澄ぬとは秋の夜の月
続後拾雅　ちりはまとふ山さとの
玉葉秋上　久かたの月のかつらの
新続拾嘉　見引の山ゆ夜ふかくいで
同雅四　かの山ちかくさしたるの月
月清集上　月の月山ゆ出あるふ風
拾玉集七　ちりぬ山月ゆ出るふ
同　大空は秋ゆ出るふ
新葉雅上　咲やらぬ花とまつ
続撰秋上　七夕ゆ出ふ天河

玉葉秋下　梅さくらの風ゆ
新千載下　花の花風ゆ
山家集下　月ゆ外ゆ
大和物語　須ゆ
拾玉集七　ありつ
拾遺雅秋　月ゆ
壬生二首上　ゆ出
新続雅上　かゆ
続千載　なゆ
新葉秋下　葛城ゆ
続後拾雅上　和田の
月清集上　九重ゆ
山家集上　緑ゆ
壬生二首上　ゆ出
新続雅上　天河ゆ
俊頼秋上　君ゆ

梅さくらの風ゆ出ふ
花の花風ゆ出ふ
月ゆ外ゆ出ふ
須ゆ出ふ
ありつゆ出ふ
月ゆ出ふ
ゆ出ふ
かゆ出ふ
なゆ出ふ
葛城ゆ出ふ
和田の出ふ
九重ゆ出ふ
緑ゆ出ふ
ゆ出ふ
天河ゆ出ふ
君ゆ出ふ

俊頼朝臣
刑部卿範兼
俊頼朝臣
平氏村
新千載海
新光近中納言
安嘉門院四条

新古今秋下　君ゐあうみつくさらん秋の山　ゐなの笹原月やちるらん　中宮
山家集上　秋の花月やちるらん　道二条院
壬生二条中　姥風ふかぬうらもなく澄月に　長房
拾玉集七　我ちるうらんもあるすゑなれば　同七
新撰古今　初瀬山花ふき風ふかぬ月　月清集下
後拾遺雜　夜嵐やちる山のあるかぎりせず　壬生二条上
山家集上　中くまんつくすゆふ月ぞ　新古今秋下
拾遺愚草　思ひのゆふ月もうらぬ秋の夜の月　入日さしぬ海の山のうらぬ夜の月　曾禰好忠
壬生二条下　うらぬ夜日も名ぬ秋の夕　同
金葉集上　ちるもしれぬ夜ふきの月　花原基光
拾玉集二　みるもうらぬ秋の夜の月　普光園院
新古今秋下　みるもうらぬ夜の月　宝光院入道
新千載秋　月の世界ぬ秋の山の月　後定
風雅賀　我ぬ秋ぬ月の月　中宮師光
新後古今秋　秋の月ぬ月　祝部成茂
山家集下　秋の月ぬ月　
後拾遺雜上　いつ秋ぬ月　
新拾雜上　ちるもうらぬ月　

新古今秋下　君ちるうらぬ月　同
拾遺愚草　ちるもうらぬ月　
拾玉集六　君ちるうらぬ月　
新古今秋下　ちるもうらぬ月　東三条院
後拾遺雜三　ちるもうらぬ月　
新千載秋　ちるもうらぬ月　
新後撰秋　ちるもうらぬ月　
新古今秋下　ちるもうらぬ月　
新後撰秋　ちるもうらぬ月　
新古今賀　ちるもうらぬ月　
新拾秋上　ちるもうらぬ月　
風雅雜上　ちるもうらぬ月　
山家集上　ちるもうらぬ月　
新葉賀　ちるもうらぬ月　中宮
新千載　ちるもうらぬ月　道二条院
拾玉集六　ちるもうらぬ月　長房
同七　ちるもうらぬ月　
月清集下　ちるもうらぬ月　
壬生二条上　ちるもうらぬ月　
新古今秋下　ちるもうらぬ月　曾禰好忠

玉葉五下
壬生二条下
拾玉集五
新拾補
後千載
新拾秋上
月清集上
玉葉
後千載
金葉秋
拾玉集七
後千載
後古雅中
後千載
新拾春上
同五下
後拾春上

さうひのくれの心を
いるさのよ年のくれ
あらしのさきつの日
あさくさ行くすゑ
君まつ風の日吉の
いつくより光さす秋の月
春は世の河の柳さき
男山さくらてす月
和哥の光をみくしの
見るさひのをてい
わの高の月ぬき初
見えれをてる後の
世を照す月はいと
さうとと照す月
ゆくもの光をとの
天津空雲をてく久
山さくみ尾上の梅
五四山てをまの花

ゆきて
ぬれ
ぬれ
ぬれ
ぬれ
ぬれ
ぬれ
ぬれ
ぬれ
ぬれ
ぬれ
ぬれ
ぬれ

拾遺哀四　天暦御製
新古今秋上　わたつみの神に手向くもみぢ葉の錦を織る秋の夕暮　藤原雅経
新後拾遺秋上　紅葉の錦を織る秋の夕暮　藤原雅経
新後古雑中　夕霧の立ちかくす山の高木の梢まはらに秋の一村雨　平宗親
山家集下　八月の月の光の清き夜の雲の上まで澄みのぼるかな　郭公
新後古雑上　月澄みて雲の上まで澄みのぼる秋の一村雨　平宗親
新葉雑上　高砂の松の梢に吹く風の音に秋をば知りぬるかな　醍醐院
拾玉集二　秋の夜の月の光に吹く風の音に秋をば知りぬるかな　中院入道一品
後拾遺雑冬　月の光に吹く風の音に秋をば知りぬるかな　中院入道一品
玉葉雑一　年ふれば浦の波の音に秋をば知りぬるかな　藤原為家
同賀　和歌の浦の波の音に秋をば知りぬるかな　大宰大弐重基
壬生二条下　焼け残る民の家もいつしかみんの草の葉の露　藤原為家
後拾遺雑一　焼け残る民の家もいつしかみんの草の葉の露　藤原為家
古今哀二　人を思ふ心の色の秋の夜の月の光に袖ぬれにけり　藤原為家
玉葉哀四　人を思ふ心の色の秋の夜の月の光に袖ぬれにけり　藤原為家
拾遺哀四　九重の雲の外にぞ秋の夜の月の光に袖ぬれにけり　藤原為家
新葉雑上　九重の雲の外にぞ秋の夜の月の光に袖ぬれにけり　藤原為家
同紀雑下　秋の夜の月の光に袖ぬれにけり　中務卿宗良親王

千載雑上　秋の夜の月の光に袖ぬれにけり　右衛門督実定
新勅撰哀　秋の夜の月の光に袖ぬれにけり　相模
玉葉哀四　秋の夜の月の光に袖ぬれにけり　周防内侍
新古雑中　秋の夜の月の光に袖ぬれにけり　花園有家卿
玉葉冬　秋の夜の月の光に袖ぬれにけり　藤原実氏
同雑四　秋の夜の月の光に袖ぬれにけり　太政大臣
拾遺雑賀　秋の夜の月の光に袖ぬれにけり　参河内侍
金葉哀　秋の夜の月の光に袖ぬれにけり　良暹法師
新古秋下　秋の夜の月の光に袖ぬれにけり　源俊頼朝臣
同紀哀　秋の夜の月の光に袖ぬれにけり　権大納言公實
新勅冬　秋の夜の月の光に袖ぬれにけり　成秀法師
新葉冬　秋の夜の月の光に袖ぬれにけり　正三位家隆
拾葉賀　秋の夜の月の光に袖ぬれにけり　後村上院御製
新拾賀　秋の夜の月の光に袖ぬれにけり　左兵衛督基良
同紀秋　秋の夜の月の光に袖ぬれにけり　花園院御製
新葉雑下　秋の夜の月の光に袖ぬれにけり　新待賢門院
後拾遺秋下　秋の夜の月の光に袖ぬれにけり　慈道法親王
玉葉冬　秋の夜の月の光に袖ぬれにけり　大宰大弐重基

後拾雜上　深のこいくさ月とかさねんん　ゝもゝ井てこゝろ霧の毛衣　後拾氏規信
新古爵旅　おもそもゝもゝ紅ゝ浮ゝ色ゝ　ゝもゝのゝ川ゝ紅ゝ葉ゝ　後拾形宣旨
新後拾上　ありもあゝゝゝゝゝゝゝゝ　ゝもゝのゝゝゝゝゝゝ　西園寺文道前
新後拾爵旅　太山ゝゝゝゝゝゝゝゝ　ゝもゝのゝゝゝゝゝゝ　太政大臣
新後拾春下　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　ゝもゝのゝゝゝゝゝゝ　花園院御製
玉葉雜一　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　ゝもゝのゝゝゝゝゝゝ　後醍醐天皇
拾遺哀上　しゝすゝきゝゝゝゝゝゝ　ゝもゝのゝゝゝゝゝゝ　少將內侍
新千秋下　我門のゝゝゝゝゝゝゝゝ　ゝもゝ井てゝゝゝゝゝゝ　
後撰秋中　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　ゝもゝをゝゝゝゝゝゝゝ　
新拾秋下　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　ゝもゝをゝゝゝゝゝゝゝ　
長秋詠藻上　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　ゝもゝをゝゝゝゝゝゝゝ　
新勅哀上　天ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　ゝもゝのゝゝゝゝゝゝゝ　
拾遺雜秋　吹風ゝゝゝゝゝゝゝゝ　ゝもゝのゝゝゝゝゝゝゝ　
新千秋四　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　ゝもゝのゝゝゝゝゝゝゝ　
新古哀一　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　ゝもゝのゝゝゝゝゝゝゝ　
後撰哀三　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　ゝもゝのゝゝゝゝゝゝゝ　
後拾哀　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　ゝもゝのゝゝゝゝゝゝゝ　
新千春下　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　ゝもゝのゝゝゝゝゝゝゝ　

同哀下　さゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　ゝもゝのゝゝゝゝゝゝゝ　後拾氏規信
新葉雜上　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　ゝもゝのゝゝゝゝゝゝゝ　後拾形宣旨
後拾撰春下　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　ゝもゝのゝゝゝゝゝゝゝ　二條院讃岐
金葉哀　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　ゝもゝのゝゝゝゝゝゝゝ　下野
玉葉春上　春ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　ゝもゝのゝゝゝゝゝゝゝ　
後拾哀草上　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　ゝもゝのゝゝゝゝゝゝゝ　
後拾冬　山ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　ゝもゝのゝゝゝゝゝゝゝ　冷泉太政大臣
新後古賀　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　ゝもゝのゝゝゝゝゝゝゝ　後照院宮
月清集上　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　ゝもゝのゝゝゝゝゝゝゝ　
後拾雜春　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　ゝもゝのゝゝゝゝゝゝゝ　後京極太政大臣
風雅冬　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　ゝもゝのゝゝゝゝゝゝゝ　源光行
新葉冬　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　ゝもゝのゝゝゝゝゝゝゝ　皇太后宮大夫俊成
後拾遺哀上　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　ゝもゝのゝゝゝゝゝゝゝ　久頁
千載冬　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　ゝもゝのゝゝゝゝゝゝゝ　
玉葉哀上　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　ゝもゝのゝゝゝゝゝゝゝ　大炊御門右大臣
後拾哀草上　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　ゝもゝのゝゝゝゝゝゝゝ　入道前太政大臣
新後古春上　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　ゝもゝのゝゝゝゝゝゝゝ　

壬生二条中　新千秋下　新続古今　続後拾遺上　新葉雑上　千載雑上　新古今　新葉雑四　続後拾遺上　月清集上　新古雑上　新続古今　玉葉雑一　新拾雑中　壬生二条中　新葉雑　壬生二条上

ゆきはれぬ宮ぢの秋の月の光　つもれる雪の松の葉の色　贈従三位為子
なにとなく月もてはやす人の秋　ちらしそへしもあれとあはれの秋の別を　従二位家隆
かつら山月の光の秋の色　つもるとしの松の葉の色　後鳥羽院御歌
かへるべき時なりけりとやあらん　つもれる雪の春の色　前大納言実清
かつらきやたなびく雲の山の端に　つもれる雪の春の色　左京大夫行宗
秋とうとき月の光の山の端に　つもれる雪の春の色　周防内侍
月おもしかつらの山の秋の月　つもれる雪の春の色　中務卿宗良親王
なるきりの雲の山の秋の月　つもれる雪の春の色　
月入海の月をもとめぬ海の色　つもれる雪の春の色　
きりのもとあれとあれぬ月の光　つもれる雪の春の色　
いつのまにか秋の光の月の色　つもれる雪の春の色　
君の代のつもりぬる雪の春の色　つもれる雪の春の色　皇太后宮大夫俊成
月の光の秋の色　つもれる雪の春の色　僧正宋縁
玉葉雑一　つもれる雪の春の色　
新拾雑中　つもれる雪の春の色　
壬生二条中　つもれる雪の春の色　花園左大臣
新葉雑　つもれる雪の春の色　春宮大夫師忠
壬生二条上　つもれる雪の春の色　

新千秋下　秋の月の光　つもれる雪の春の色　
金葉雑上　西の海の月の光　つもれる雪の春の色　
新古雑上　月の光の秋の色　つもれる雪の春の色　
拾遺愚草上　月の光の秋の色　つもれる雪の春の色　
壬生二条中　月の光の秋の色　つもれる雪の春の色　
玉葉雑下　秋の月の光　つもれる雪の春の色　
続後拾遺　秋の月の光　つもれる雪の春の色　後三位為子
玉葉雑一　秋の月の光　つもれる雪の春の色　
金葉雑上　秋の月の光　つもれる雪の春の色　
続後拾遺　秋の月の光　つもれる雪の春の色　
新勅撰雑四　秋の月の光　つもれる雪の春の色　
新葉雑下　秋の月の光　つもれる雪の春の色　
新古今　秋の月の光　つもれる雪の春の色　
新勅撰　秋の月の光　つもれる雪の春の色　
玉葉雑一　秋の月の光　つもれる雪の春の色　
続後拾遺　秋の月の光　つもれる雪の春の色　
新勅撰　秋の月の光　つもれる雪の春の色　
千載雑上　秋の月の光　つもれる雪の春の色　
壬生二条中　秋の月の光　つもれる雪の春の色　
新千秋冬　秋の月の光　つもれる雪の春の色　

新續古爵集　行事も行くさうなる山の外　園熙法師
後拾遺夏　なりもあるものもてしと郭公　月花門院
新後拾遺夏　聞くうつる月ばかりて短夜の　権大僧都慶尋
後拾遺下　立ぬうとかりたるまもなさうて　前大納言為家
古今夏　夏のうつる海ちかうあるあり　ふ[illegible]
新千秋下　あるうらぬ秋も名残と有ふる　後二条院御製
新後拾遺雜上　夕暮ふる時雨なるはつきれ　後二条院
拾遺愚草　袁海ちかうあるあるあるすす　後二位氏久
玉葉秋上　ちるさもく風も秋ある夕暮の　永仁院
風雅雜中　夕ぶく白山のあるさうはまふ　順徳院御製
新葉雜一　夕暮ふるあるくとあるあれて　後人不知
壬生二品下　秋風ふるあるくとあるあれて
後千秋上　夕くれの月ばかりもあるあ
新古雜二　あるあるあるあるあるあるあ
月清集上　あるあるあるあるあるあるあ
壬生二品中　あるあるあるあるあるあるあ
月清集上　あるあるあるあるあるあるあ
後撰秋下　あるあるあるあるあるあるあ

新勅撰　郭公きくやあるあるあるあ　前大僧正慈円
新後拾遺春下　月ばかりあるあるあるあ　前大納言信実
後拾遺雜中　谷深き苔の花のあるあ　太政大臣信実
金葉秋　もとの分ばかりあるあるあ　源俊頼朝臣
拾玉集夏　みねの月ばかりあるあるあ　源俊頼朝臣
金葉雜　雲ふかるあるあるあるあ　源俊頼朝臣
新後拾遺冬　あるあるあるあるあるあ　源俊頼朝臣
金葉雜上　あるあるあるあるあるあ　源俊頼朝臣
新後拾遺秋上　あるあるあるあるあるあ　源俊頼朝臣
拾遺愚草下　あるあるあるあるあるあ　源俊頼朝臣
新後拾遺　あるあるあるあるあるあ　源俊頼朝臣
後古今雜上　あるあるあるあるあるあ　源俊頼朝臣
同愚四　天川秋の古里なるあるあ　藤原定家
須磨　心ばかりあるあるあるあ　藤原定家
風雅愚二　紅葉ばかりあるあるあ　藤原定家
後古今春上　かりがねのあるあるあ　藤原定家
新後拾遺秋　あるあるあるあるあるあ　藤原定家
後拾冬　あるあるあるあるあるあ　藤原定家

新撰古今三　月をみてあるさとうの海の西のはて　海道記
新千冬　山ゆくる嵐のこえ絶えて夜半の月　郭公
拾遺恋三　みをつくしはるかに見わたす海の面　右近大将道綱
風雅冬　いつくもはるかにすむ月の光　法性寺関白
千載夏　さ月つごもりの月の光　
山家集上　秋の月いるさの山の峯ちかく　
月清集上　山の井の水の面にうつる月　
新撰古歌上　岩ぬまの水にうつる月　
後千冬　嵐ふきはらふ雲の間より　
長秋詠藻　うち出でぬ山の端ちかく雲晴れて　
後千夏　かつらの葉やつたの葉の色の変　
同千秋雜上　行人をあはれとおもふ心ちして　
新勅撰冬　冬の秋のあはれをもよほす雲かな　
後古今雜体　行末の月をいつくもとめてか　
新千秋上　天河月の波をいつくもとめて　
新拾秋上　わたの原ちかくの月をとめてこそ　
後千夏　紅葉のもとにうつる月　
山家集上　月をみてあるさとうの海の西のはて　

月清集上　こうちのひとそ入日の方ぞ　
新千春　をちかたの方に生ふるあしの葉に　
新古雜上　山ゆくの方にはるかにすむ月　
玉葉春　はるかにしるしるべの月の光　
続後二　たちかへりあはれとおもふ秋の月　
後拾夏　つれなくて今もうつらぬ月の影　
新千秋上　ながめしもうつらぬ月の影　
山家集下　こうちの君とその山の月をみて　
新千雜上　西の方ちかくすむ月のつれなく　
後撰春上　ちかくすむ月のつれなくみえ　
新千秋上　住山にすむ月をみてあはれ　
玉葉秋下　むかしの秋のつれなく月　
同春下　思ひきや雪の中にすむ月を　
古今雜下　わすれはてしかたみの月　
同花雜上　もとのすみかの月をこそ　
新古雜上　独の浦の波の上の秋の月　
後千春上　ながめつくしてあかぬ月　
拾遺秋　ながめつくしてあかぬ秋の月　

俊頼
後鳥羽院御製
平忠盛朝臣
新院御製
源頼政
平経正
源俊頼朝臣
平親宗卿
藤原実定
大江千里
大政大臣
中務
八条大宮
藤原定家
相模
俊成
大宰大貳重家
藤原基俊
藤原公重
藤原為忠
藤原為家
藤原為氏
藤原為相
藤原為世
藤原為兼
藤原為秋
藤原為定
藤原為尹
藤原為冬
藤原為守
藤原為藤
藤原為世
藤原為兼
藤原為秋
藤原為定
藤原為尹
藤原為冬
藤原為守
藤原為藤

長秋詠藻

玉葉秋
拾遺賀上
壬生二荒上
玉葉雜三
新古雜下
拾遺雜二
新後古雜下
新勅雜上
壬生二荒上
新勅秋上
後拾遺賀上
玉葉秋下
月清集上
拾玉集古
同
拾遺恋上

のかりのこゑ雲上人のうたよみ
けるなかの山のまつ時雨
あらしの後の山のまつ時雨
雲のうへ人の里うとく
今はとて月にうつりぬ
雲のうへ人のうたもしつも
雲のうへ人のうたもしつも
雲のうへ人のうたもしつも

風雅 夏
拾玉集 夏
新後拾秋下
新拾秋下
拾玉集五
玉葉冬
新千夏
拾遺愚草下
続千冬
同雜上
拾玉集二
拾遺愚草下
拾遺愚草
風雅 夏
新後夏
新後雜
新後夏
新古冬

夏の海の小田のさなへの山なる　院一条
月みつる夏の山のはよりかすかに　九条入道
嵐はまつ夏の初雲の空　藤宗光之卿
野山にかすかにうつる月の夏　寂蓮法師
木ずえにかすかにうつる月の夏
雪のふれる山の端もかすかに夏
いつくも山のこしまの夏の月　九条大臣
新千夏
拾遺愚草下
続千冬
同雜上
拾玉集二
拾遺愚草
風雅 夏
新後夏
新後雜
新後夏
新古冬

かすかに海の雲の夏の月　藤内大臣
はるかに海の雲の夏の月　藤内大臣
おぼろの山のこしまの夏の月　藤内大臣
つれてこそ夏の山のこしまの月　藤内大臣
つれてこそ夏の山のこしまの月　藤内大臣
うつるひかりの夏の月　藤内大臣
郭公なくこしまの夏の月　藤内大臣
なくこしまの夏の月　藤内大臣
山のこしまの夏の月　藤内大臣
かすかに海の夏の月　藤内大臣
世中の夏の月　藤内大臣

月清集下
新古夏
同
拾遺愚草三
新後拾夏
新新冬
拾遺愚草下
新後拾春
新古夏
続千夏
風雅雜中
新古冬四
玉葉二下
月清集下
拾玉集七
同又
新後秋上
金葉秋

夏の雪の紙衾の夏の月　皇太后宮大夫俊成
わくらはの夏の月　白河院北面
うれしかりける村雨の夏の月　白河院北面
夏の月　院四宮
夏の月　皇太后宮大夫俊成
夏の月　白河院北面
夏の月　白河院北面
夏の月　白河院北面

新古秋上　月新のすがたうつる雲間かな　大納言雅信
孫千冬　[illegible]
同雜上　[illegible]
拾遺雜上　[illegible]
月清集下　[illegible]
新拾雜上　[illegible]
新後撰雜下　[illegible]
風雅雜中　[illegible]
新後古秋上　[illegible]
拾玉集七　[illegible]
孫子秋下　[illegible]
拾玉集七　[illegible]
新勅秋上　[illegible]
同雜上　[illegible]
長秋詠藻中　[illegible]
玉生二冬中　[illegible]
月清集上　[illegible]
孫拾夏

山家集上　[illegible]
新後撰雜下　[illegible]
後撰雜一　[illegible]
長秋詠藻　[illegible]
拾玉集一　[illegible]
孫百冬一　[illegible]
金葉冬上　[illegible]
拾玉集二　[illegible]
同夏　[illegible]
新千雜上　[illegible]
新拾春上　[illegible]
拾玉集四　[illegible]
風雅冬二　[illegible]
拾遺雜中　[illegible]
玉生二冬上　[illegible]
風雅冬　[illegible]
同夏
拾遺夏中　[illegible]

後撰雜上　ちりぬるかぜのなごりにぞ　ちりぬるかぜのなごりにぞ　ちりぬるかぜのなごりにぞ